

&lt;第55回調査&gt;

2013年12月27日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2013年12月17日(水)13:00~2013年12月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』また『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1734件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

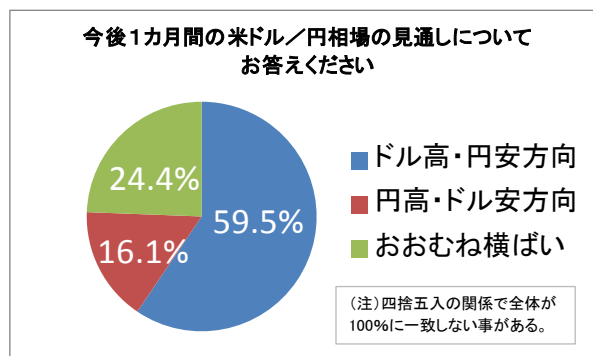
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第55回調査結果略報：豪ドル弱気派が増える】

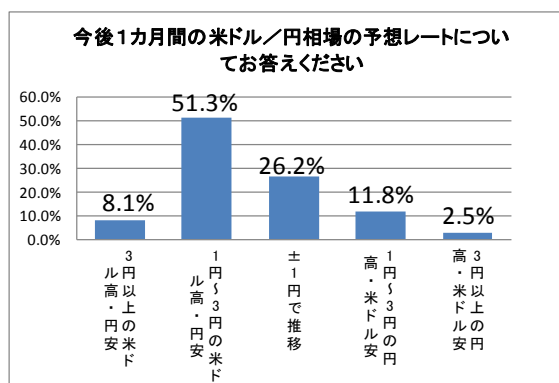
### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が59.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は16.1%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+43.4%ポイントとなり、前回の+40.7%ポイントからプラス幅が大幅に拡大。FX投資家が強気見通しを強化している様子が示された。ただし、前回から「おおむね横ばい」と見ている向きが減少(前回：34.3%)し、「米ドル高・円安方向」で見ている向きも「円高・米ドル安方向」で見ている向きも双方(前回：53.2%、12.5%)増加している。調査期間中の米ドル/円相場は、102.50円前後から20日にかけて104.60円台前半まで上昇し、年初来高値を更新。しかしその後は伸び悩んだ。こうした中、「まだ伸びる」と見る向きが過半数となる一方、「そろそろ天井か」と見る向きも増えたものと考えられる。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が51.3%と最も多く、「±1円で推移」が26.2%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は11.8%、「3円以上の米ドル高・円安」は8.1%、「3円以上の円高・米ドル安」は2.5%という結果になった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的と言える。特徴としては、引き続き、上昇を見込む向きが圧倒的に多いという点だ。「3円以上の米ドル高・円安」を見込む向きも増加(前回：6.5%)している。ただ、「円高・米ドル安」方向の回答を見てみると、「1円～3円の円高・ドル安」が減少(前回：12.8%)した一方で「3円以上の円高・米ドル安」も前回(1.1%)より増えており、問1で「円高・ドル安方向」と答えた向きは比較的大きめの調整を予想している様子が見受けられる。なお、これらから考えられるFX投資家の米ドル/円の予想コアレンジはおおよそ103円～107円台前半と考えられる。

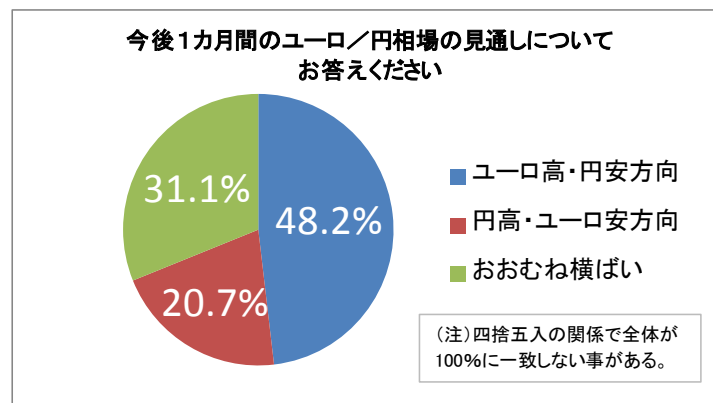


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

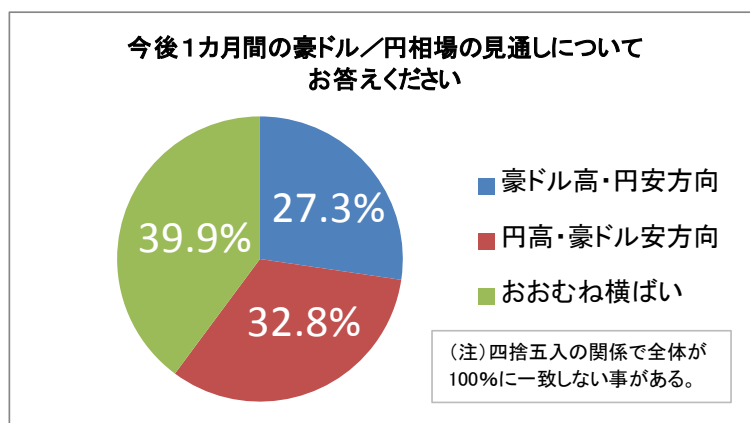
「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が48.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が20.7%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+27.5%ポイント」となり、前月(+10.1%ポイント)からプラス幅が拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、141.00円前後から上昇したものの、142円台後半では伸び悩みを見せた。しかし、「ユーロ高・円安方向」との回答が大幅に伸びており(前回:34.8%)、FX投資家層が11月から続くユーロ高・円安の流れを受けて、ユーロに対する猜疑心を緩和させてきているものと見られる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が27.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は32.8%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-5.5%ポイントと、半年ぶりに弱気予想優勢へ転換した。調査期間中の豪ドル/円相場は、91.00円台まで値を沈めた後に戻したが、93円台に乗せると伸び悩み、他のクロス円で円安が進んだことを考慮すると頭の重さが目立った。豪中銀(RBA)が豪ドル高牽制の姿勢を強く示している中、市場では豪ドル弱気観測が根強い。FX投資家層においても当面は横ばいから豪ドル安の可能性を意識する向きが多いようだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

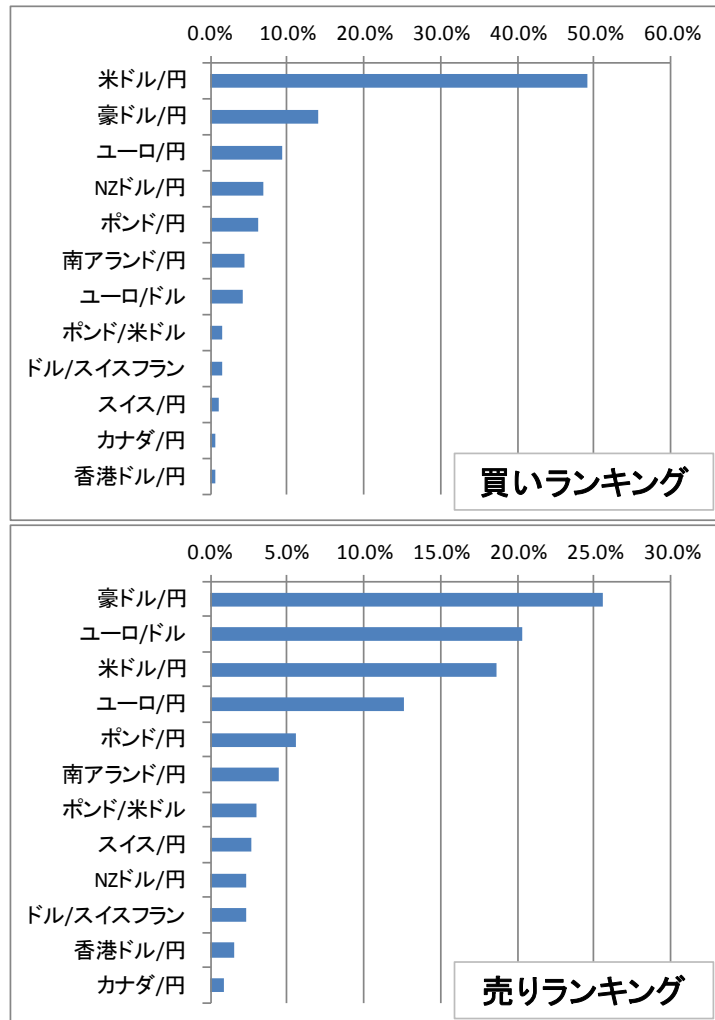


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(49.1%)、2位豪ドル/円(14.1%)、3位ユーロ/円(9.4%)、4位NZドル/円(6.9%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル(25.6%)、2位ユーロ/ドル(20.4%)、3位米ドル/円(18.6%)、4位ユーロ/円(12.6%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が後続に大差を付けてトップの座をキープ(15カ月連続)している。ただ、2位の豪ドル/円を買い注目していると答えた回答割合が低下(前回: 15.3%)。豪ドル人気は根強くはあるものの、問4の結果から窺えるように、先安感を持っているFX投資家は多いと考えられる。その証拠に、「売り」で注目通貨ペアで、「豪ドル/円」が1位(前回: 4位)に躍り出た。また、前回1位となったユーロ/ドルは順位こそ落としたが、引き続き注目度は高い。全般的にドル高が進む中でユーロ/ドルについては先安観を維持するFX投資家層が多い模様だ。

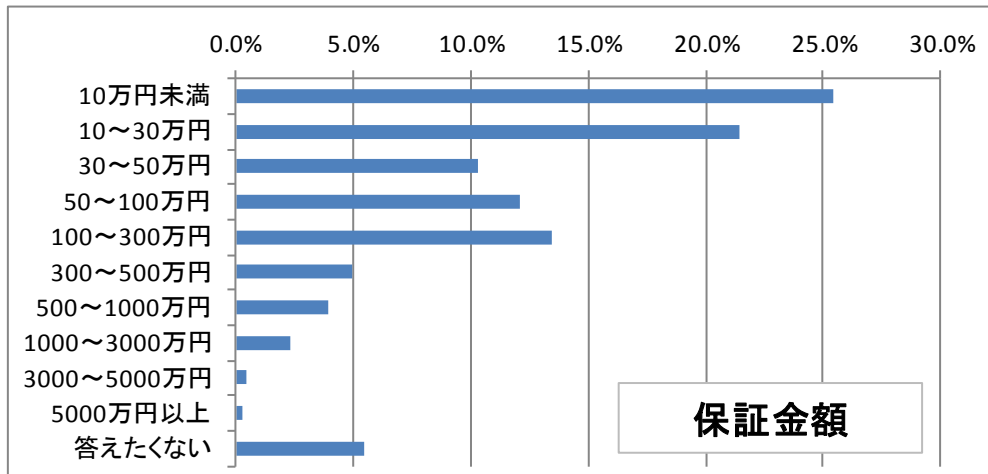


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

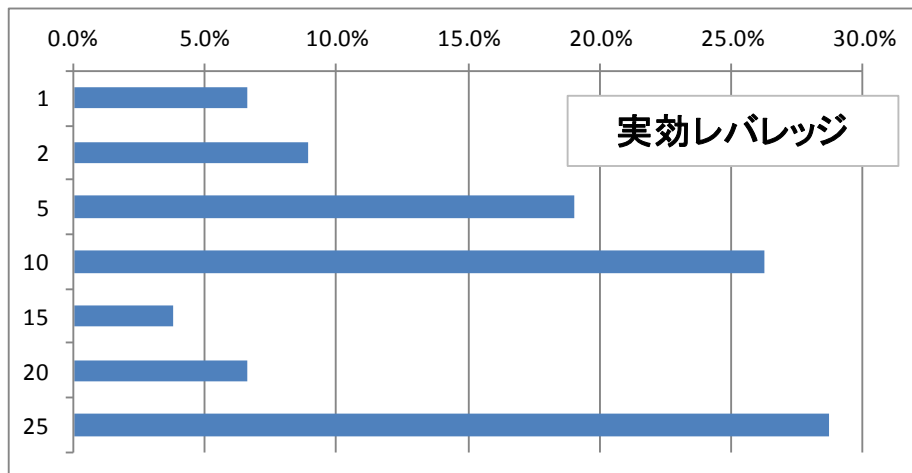
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.4%と最も多く、以下「10～30万円(21.4%)」、「100～300万円(13.4%)」、「50～100万円(12.1%)」、「30～50万円(10.3%)」と続いた。前回調査とほぼ同様の分布となっており、全面的に円安が進む中でも取引保証金額を変化させる動きは特になかったように見受けられる。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「25倍」と答えた割合が28.8%と最も多く、「10倍」が26.3%、「5倍」が19.0%と続き、以下、「2倍」が8.9%、「1倍」と「20倍」が6.6%と続いた。最大レバレッジである25倍を主に活用する向きが引き続き最も多い。次に多いのが「10倍」という点を見ると、リスクをある程度絞ってFX取引を行おうとする層は「10倍」という計算しやすいレバレッジを好む傾向があるものと引き続き考えられる。

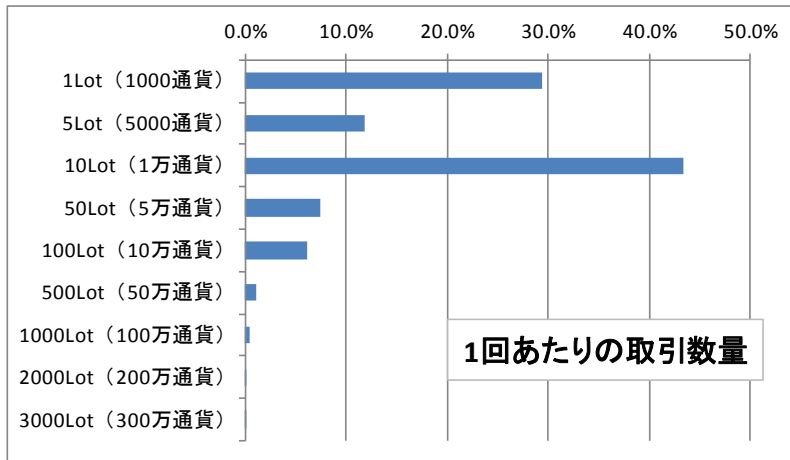


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

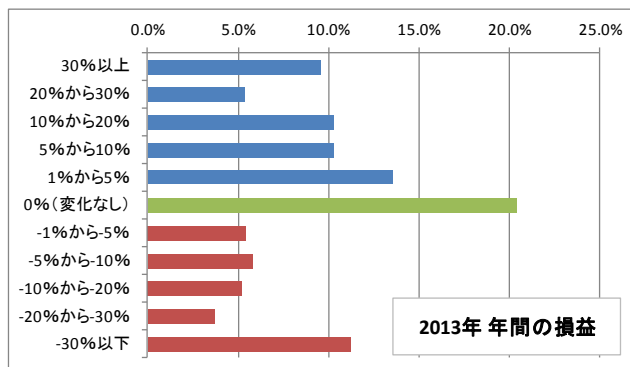
### 問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が43.4%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が29.4%、「5Lot(5000通貨)」が11.8%、「50Lot(5万通貨)」が7.4%、「100Lot(10万通貨)」が6.2%と続いた。前回と同様、10Lotや1Lotが合わせて7割超を占めており、引き続きキリの良い数値が好まれる様子が見受けられる。次点に「1Lot(1000通貨)」がきた理由としても、FX会社の中には少額取引を推進するために1000通貨単位から取引可能にしている企業もあり、最低限の金額からFX取引を行ってみようとする層が一定程度いることが背景にあると考えられる。



### 問9: 2013年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。(例: 100万円の投資資金が110万円になった場合10%) また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。

今月の特別質問項目として「2013年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか」と尋ねたところ、「0%(変化なし)」が20.3%と最も多かった。しかし、損失が出たと答えた回答割合が合計で20.9%の一方、利益が出たと答えた回答割合は合計で48.8%に上るなど、この年は利益を出したFX投資家層が損失を出した投資家層よりも圧倒的に多かったことが確認出来る。1年を通して円安が大きく進んだ2013年は、円売りから参入することの多いFX投資家の多くにとってプラスの年となったようだ。利益が出た原因として「アベノミクスによる円安」を挙げる声も多かった。一方、損失が出た原因としては「損切りが遅いため」「豪ドルのロングに固執し過ぎた」などの声が目立った。

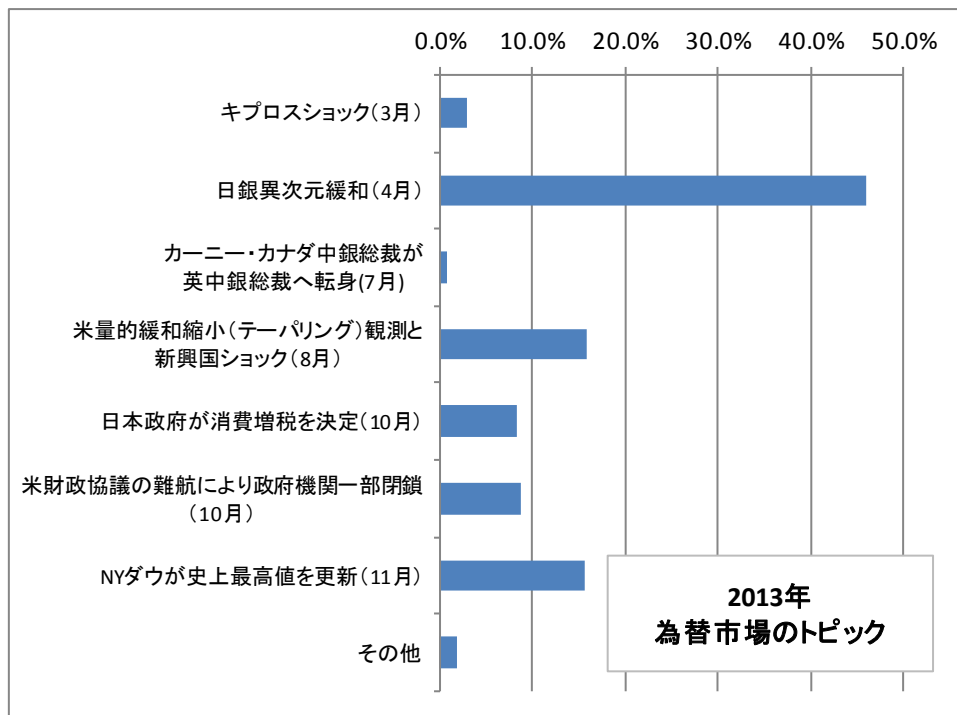


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: 2013年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

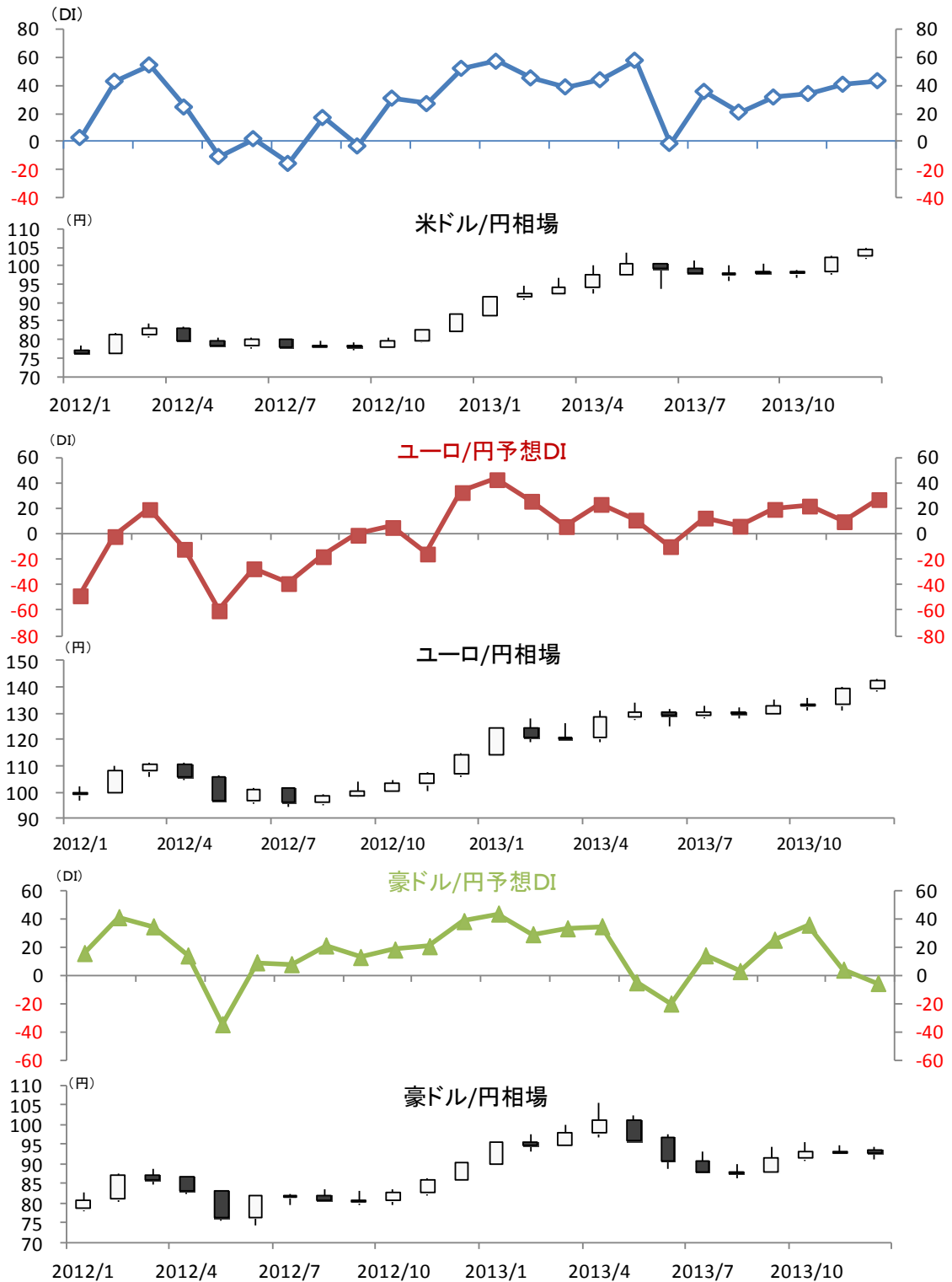
今月の特別質問項目として「2013年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「日銀異次元緩和(4月)」と答えた割合が45.9%と最も多く、「米量的緩和縮小(テーパリング)観測と新興国ショック(8月)(15.9%)」、「NYダウが史上最高値を更新(11月)(15.5%)」、と続いた。今年前半、大きく円安を薦める要因となった「日銀の異次元緩和」が圧倒的な回答割合を集め、年後半のマーケットの立役者となった「米量的緩和縮小(テーパリング)観測」は大きく水をあげられた格好になった。テーパリングについては年前半から話題となりながらも、なかなか実行されなかったため、為替市場を大きく動かした印象というよりは、分かりにくい波乱要因と看做すFX投資家が多かった可能性もある。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第55回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com